

大桑 特別号-2 まさたか



横浜市議員 2期目
よろしくお願いします！

さかえく せかい か
栄区から横浜を変える！

【公約】

現在を含め未来のために持続可能な横浜(社会)をつくる！

横浜市の借入金残高 6兆1,312億円 → 5兆1,982億円へ

平成22年度末の横浜市の借入金残高は**5兆1,982億円**になる見込みです。平成21年度末の横浜市の借入金残高が**5兆2,738億円**でしたので、借入金残高がこの1年間で**756億円**減少する見込みとなっています。また、私が市議員になった時に発表された平成14年度末の借入金残高は、**6兆1,312億円**でしたので、その時と比べると**9,330億円**減少したことになります。



横浜市の人口は2020(平成32)年ごろまでは増加すると予想されていますが、日本の人口は、すでに減少に転じています。人口が減少すれば、市税収入なども減少していきますので、人口が増加している、今から横浜市の借入金を縮減していかないと将来世代(子や孫)に過度な負担(増税など)を押し付けることとなります。

次に、横浜市を含め日本は、借入金を確実に削減していかなければ、いつ世界から信用を失うかわかりません。横浜市は毎年、確実に借入金を返済していますが、国の借入金返済のメドはたっていないように感じます。今の日本は「世界から借入金の返済は難しいと判断されるかもしれない」というところまで財政状況が悪化していると、私は感じています。横浜市の財政はもちろん、国の財政を少しずつでも健全化していかなければ、数年前の夕張市や最近のギリシャのように財政が破綻します。その影響は、今、横浜市や日本に住む皆さんに増税などという形ではね返ってきます。

そうさせないために皆様のご協力が必要です。今を生きる我々のためにも、将来世代のためにも、様々な事業を見直し、負担を公平化し、借入金を返済するメドをつけなければいけません。厳しいお願いになると思いますが、ご理解頂ければ幸いです。

大桑新聞 特別号-2

プロフィール 大桑 正 貴(まさたか)

発行元

横浜市議員 大桑正貴(まさたか)

〒247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町688-4-601

HP : <http://m-okuwa.net/>

E-mail : m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp

昭和48年(1973年)7月4日生まれ横浜育ち 血液型A型
横浜市立小山台小学校入学
大分県立大分舞鶴高校入学(1年次冬、転勤で横浜へ戻る)
神奈川県立大岡高校卒業
神奈川大学法学部法律学科卒業
平成14年(2002年)12月 アシスト株式会社退職
平成15年(2003年)4月 横浜市議員 初当選
平成19年(2007年)4月 横浜市議員 2期目当選
平成21年(2009年)9月 明治大学 専門職大学院卒業

カンパのお願い！

法律により、「法人」や「匿名の方からの年間5万円以上」のカンパは受け取ることが出来ません。

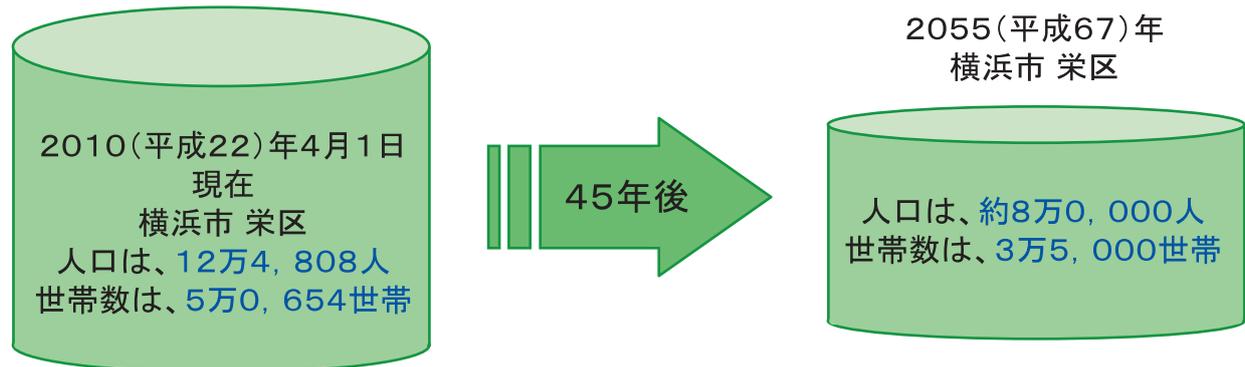
振込先 : 三菱東京UFJ銀行 港南台支店 普通口座 1097570

口座名義 : 大桑正貴としがらみのない政治を実現する会 大桑 正貴

この大桑新聞特別号は、皆さまのカンパをもとに作成しています。

栄区(横浜市)の現状と今後の課題

2010(平成22)年4月1日現在の栄区の人口は、12万4,808人(横浜市の人口は、367万2,985人です)。世帯数は、5万0,654世帯となっています。しかし、横浜市の将来人口推計によると、2055(平成67)年、45年後には、栄区の人口は約8万人(約4万5千人減少)になるとされています(横浜市の人口は、約320万人です)。また、世帯数でいえば、約3万5千世帯(約1万5千世帯減少)まで減少することになると思います。横浜市の人口はあと10年程度は増加するとされていますが、その後は減少に転じると予測されています。この人口減少や世帯数の減少は、栄区や横浜市にとっては大きな問題になると、私は考えています。



※人口は、約4万5千人、世帯数にすると、約1万5千世帯減少すると予想されている。

私が人口減少や世帯数の減少を問題だと考えるのは、人口が減少することにより、税収が減り、道路や水道、下水道を維持管理する財源が少なくなり、結果的に「まち」が維持できなくなる可能性が出てくるからです。また、公共施設なども老朽化が進んでいますので、財源がなければ更新ができなくなる可能性が高まります。横浜市内の道路延長は約7,500km。水道は約9,000km。下水道は約11,000kmあります。これは、今の横浜市の税収だから何とか維持管理をすることができます。しかし、維持管理するための財源が減れば、道路や水道、下水道を維持管理することはできなくなり、我々の生活に支障をきたすこととなります。

次に、人口が減少することにより世帯数が減少すれば、空き地や空き家が増えることとなります。空き家が増えれば、治安も悪化するでしょう。そうなる前から、計画的にまちをコンパクトにまとめていかなければ(人が住むところと、それ以外のところの線引きをし直すなど)、栄区中に空き地や空き屋が点在することになり、「まち」の活力が失われてしまいます。具体的には、空き地が増え家々が栄区内に点在することになれば、たとえば、バス路線も採算面などから撤退する可能性も出てくるでしょう。また、栄区内で営業している、商店も今まで以上に営業を続けていくことが難しくなるでしょう。

最後になりますが、これまでの横浜市(栄区)は、「まち」が広がっていく前提でまちづくりをしていました。しかし、これからの横浜市(栄区)は「まち」をどのように小さくしていくかが課題となります。もし、計画的に「まち」を小さくする(コンパクトにまとめる)ことができれば、今まで書いてきたような問題がおこってきます。これからのまちづくりのために、みなさんも栄区(横浜市)の課題を認識して頂ければ幸いです。



大桑新聞では、みなさまとともに、
栄区について考えていきたいと思っております。

HP : <http://m-okuwa.net>

E-mail : m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅、いずれかの駅で配布しております。